

地震保険お忘れなく

損保代理店が啓発キャンペーン

山口県損害保険代理業協会岩国支部(河村真志支部長)は21日、JR岩国駅前で地震保険への加入を呼び掛ける啓発・普及キャンペーンを行った。

支部に加盟している7代理店が参加、それぞれ協会のジャンパーを着込んで午後6時30分から街頭に立った。代理店の代表者らは家路につく人たちに「地震保険に入っていますか?」など声をかけながら地震保険の必要性を訴えるチラシやティッシュの入った啓発品を配った。

コロナ禍があったことで街頭キャンペーンはしばらく自粛していたが、昨年から再開した。チラシで大地震がいつ起こるかかわから

地震保険は被災者が将来に向かつて最初の一步を踏み出すための大切な役割を果たすが、2023年度の地震保険付帯率は69・7%(前年度比0・3ポイント増)、世帯加入率は35・1%(同0・1ポイント増)に留まっている。

このため、損害保険代理業協会は地震保険の必要性を社会に訴え、加入者を増やして地震対策を進めることを社会的責務としている。

河村支部長は、「新潟県中越地震が発生した2004年10月23日を契機に毎

日』と定めて啓発運動に取り組んでいます」と説明しながら先頭に立ってチラシを配っていた。

今年は1月1日にマグニチュード7・6の能登半島地震が発生したほか、8月8日には日向灘を震源とする震度6弱の地震が発生して気象庁は南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)を発表している。

地震や噴火、これらによる津波を原因とする損害は地震保険で補償される。

岩国駅前で行う啓発キャンペーンを行う河村支部長ら

